

《資料》

青年期女子のライフデザインと親準備性

服部 律子, 後藤 宗理

椋山女学園大学看護学部看護学科

要 旨

本研究の目的は、女性が自らの健康を維持・増進し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方が実現できるようなライフデザイン教育のあり方を検討するための基礎資料として、青年期、中でも青年期後期の女子のライフデザインや親準備性について明らかにすることである。

対象は、A大学の資格取得を目指す2学科とそうではない2学科の1年生510人。平成25年1月に無記名自己記入式質問紙調査を実施し、479人から回答を得た(回収率93.2%)。そのうち、年齢や尺度のすべてに回答されている451人を有効回答とし(有効回答率94.2%)、統計学的に分析を行った。

その結果、約6割の学生は将来の職業を決めて1年次から努力し、約8割は将来結婚を考え、約7割が出産を考えていた。退職の時期として最も多かったのは第2子出産時であった。この時期の女子は、過去の恋愛を通して自分自身の将来の可能性などを考えたことで、結婚や子育てなどのライフイベントへの具体的イメージが高まっていると考えられた。また、恋愛経験は親準備性にも影響を及ぼしていた。

キーワード：青年期, 女子, ライフデザイン, 親準備性